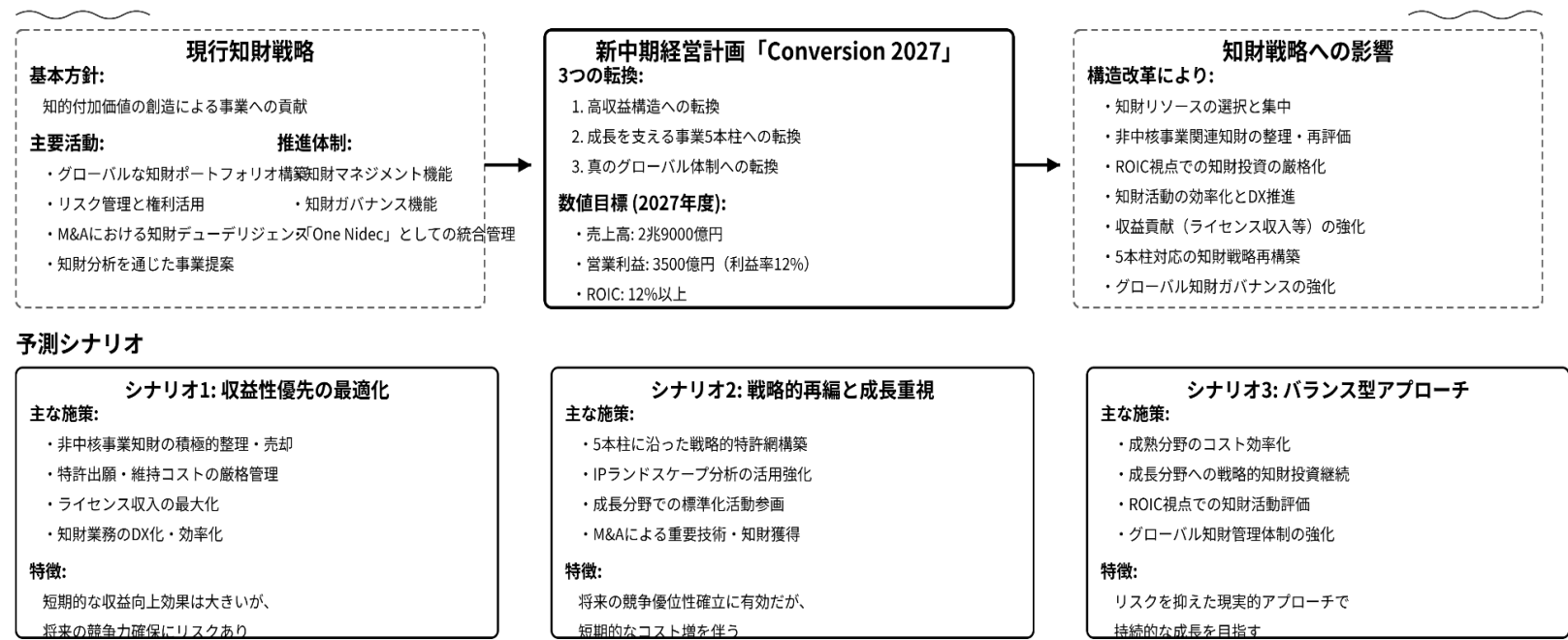


ニデック「新中期経営計画 Conversion 2027」により 知財戦略はどう変わるか？

Felo AI

ニデック株式会社の「Conversion 2027」に伴う知財戦略の変化



※発表日: 2025年4月24日 「Conversion 2027」に基づく知財戦略変化予測

Overview

ニデック株式会社が 2025 年 4 月 24 日に発表した新中期経営計画「Conversion 2027」は、収益性向上を最優先課題とし、事業構造の抜本的な改革を目指すものです[4][6][53]。これに伴い、同社の知財戦略も大きな転換点を迎える可能性があります。現行の知財戦略は、「知的付加価値の創造による事業への貢献」を基本方針とし、グローバルでの知財ポートフォリオ構築、リスク管理、権利活用、知財分析を通じた事業提案などを推進しています[1][3][41][42]。特に M&A を積極的に活用してきた同社にとって、「One Nidec」としてのシームレスな知財活動体制の構築も重要視されてきました[3][41]。

新中期経営計画「Conversion 2027」では、売上高の量的拡大よりも利益率改善（2027 年度営業利益率 12% 目標）に重

点が置かれ、不採算・非中核事業の再編・売却、拠点統合、人員削減を含むコスト構造改革（1500 億円規模）が打ち出されています[4][6][8][50][53]。また、将来の成長を支える「5 つの事業柱」への転換（2026 年度予定）や、ROIC 経営の徹底も方針として掲げられています[6][14][43][52]。

これらの経営方針の転換は、知財戦略に対して、以下の影響を与えと考えられます。

- **選択と集中:** 知財リソース（予算、人員）を、再編後のコア事業や、EV、AI データセンター、エネルギー関連などの戦略的成長分野へ重点的に配分する動きが加速するでしょう[4][6]。
- **ポートフォリオ最適化:** 不採算・非中核事業の整理に伴い、関連する知財権の売却、ライセンスアウト、権利放棄など、ポートフォリオの積極的な見直しが進む可能性があります[4][50][53]。
- **収益貢献への圧力:** ROIC 経営の導入により、知財活動の投資対効果がより厳しく問われ、ライセンス収入の拡大など、知財を活用した直接的な収益貢献への期待が高まるでしょう[6]。
- **戦略的活用:** 「5 つの事業柱」の確立に向け、知財分析（IP ランドスケープ等）を駆使した研究開発戦略の策定、M&A における知財デューデリジェンスの重要性が増すと考えられます[3][6][15][26][30][41]。

今後、具体的な事業再編の内容や「5 つの事業柱」の定義が明確になるにつれて、知財戦略の具体的な変化もより鮮明になると予測されます。

Detailed Report

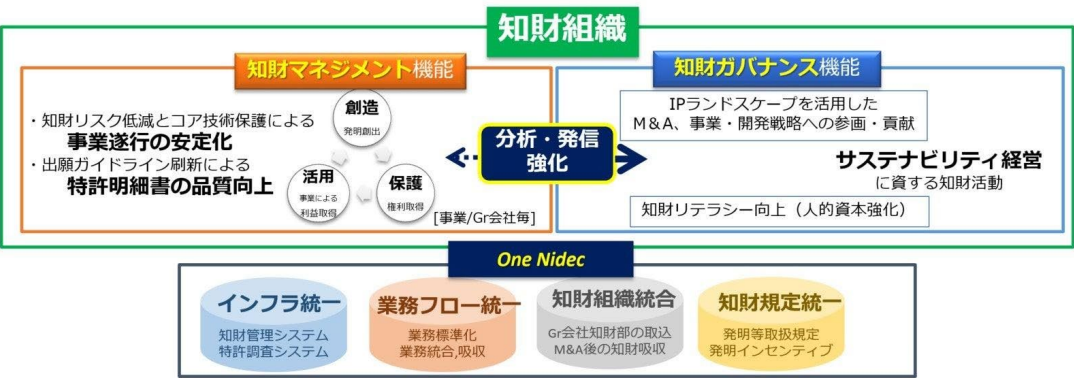
ニデックの現行知財戦略

ニデック株式会社は、持続的な成長と競争優位性の確保において、知的財産（知財）を重要な経営資源と位置づけ、戦略的な活動を展開しています。

目的と体制

- **基本方針:** 「知的付加価値の創造による事業への貢献」を目指し、知財価値の向上に努めています[1][3][41][42]。
- **推進体制:** 知財活動は主に「知財マネジメント機能」と「知財ガバナンス機能」の 2 つの機能によって事業を支えています[1][3][41][42]。
 - 知財マネジメント機能：グループ会社や事業ごとの知財ポートフォリオ構築・権利活用、知財リスク低減を担当します[1][3][41][42]。
 - 知財ガバナンス機能：グループ全体の経営に資する知財情報の提供や提言を行います[1][3][41][42]。
- **特徴:** 特に知財分析に力を入れ、技術トレンド等を分析し、既存事業への提案や新規事業提案を行う「ビジネスクリエーター」としての役割を重視しています[3][41]。M&A を積極的に行ってきた背景から、グループ全体でシームレスな知財活動を行うためのインフラや規定の統一を進め、「One Nidec」での知財推進体制を整備しています[3][41]。

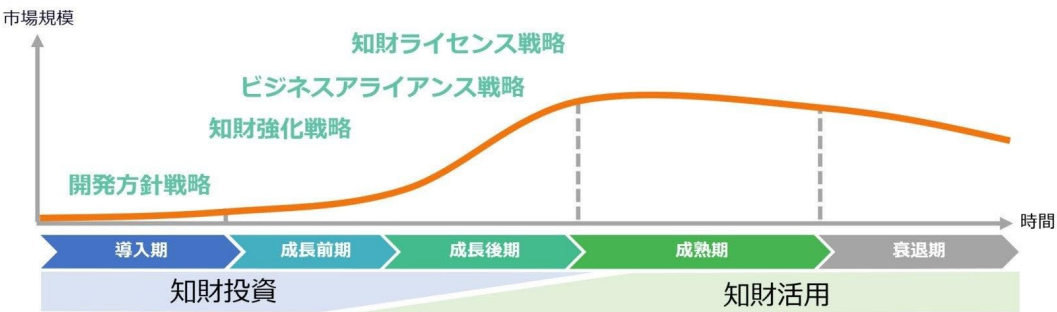
Nidecの知財活動



主要活動

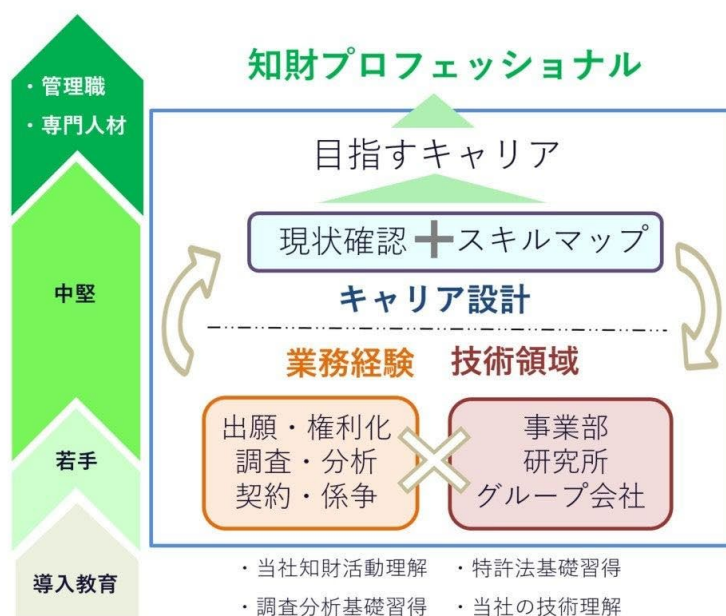
- **ポートフォリオ構築と権利活用:** プロダクトライフサイクルの各ステージに合わせたポートフォリオ構築と権利活用を実施しています[1][3][35][41][42]。
- **権利の相互活用:** 他社の知財権を尊重し、必要に応じてライセンス導入や技術供与を受けると共に、自社知財権のライセンス供与も行い、知財の多角的な活用を進めています[1][3][35][41][42]。
- **リスクマネジメント:** 事業活動に伴う知財リスクの低減に努めています[1][3][41][42]。
- **M&A 支援:** M&A における知財評価（デューデリジェンス）や、買収後の知財統合を支援しています[3][15][26][30][41]。
- **権利創出と保護:** 特許権、商標権、著作権などの知財権創出に積極的に関与し、適切に活用・保護しています[9][17][21][27][28]。他者の知財権侵害を許容しない方針です[9][17][28]。

プロダクトライフサイクルに合わせた知財活動



人材育成とインセンティブ

- **プロフェッショナル育成:** 幅広い業務経験と多様な知識を持つ人材育成のため、若手からの担当技術領域制、ローテーション、スキルマップ活用などを通じて計画的に育成しています[1][41][42]。デザイン思考の導入なども検討されているようです[18][33]。
- **発明インセンティブ:** 技術者の発明意欲向上のため、職務発明規定に基づく報奨制度に加え、「Nidec Patent バッジ」（貢献度に応じ 3 種類）や「One NIDEC 利益貢献大賞」などの多彩な報奨・表彰制度を設けています[1][41][42]。



One NIDEC利益貢献大賞規程

利益貢献度に合わせてランク分けされた報奨
(高額から低額まで)

名誉の授与



職務発明規程

特許・実用新案・ノウハウ・公開技報

知財活動への協力

- ・自社特許の侵害品発見
- ・他社有力特許の無効化

外部評価 これらの取り組みは、外部機関からも高く評価されており、クラリベイト社の「Top 100 グローバル・イノベーター」に選出された実績や、地域の発明表彰での受賞歴があります[1][23][32][41][42]。

新中期経営計画「Conversion 2027」の概要

2025 年 4 月 24 日に発表された「Conversion 2027」は、ニデックが今後 3 年間（FY2025-FY2027）で取り組む経営計画です[query][4][6][44][46][47][53]。FY2024（2025 年 3 月期）に過去最高の売上高・営業利益を達成したものの[2][4][6][52][53]、さらなる成長と収益性向上のため、構造改革に踏み込む内容となっています。

背景と目標

- **背景:** グローバルでの事業拡大と M&A による成長を経て、グループ全体の最適化と収益構造の強化が課題となっていました[43][52]。特に EV 市場の競争激化への対応などが挙げられます[14][43][52]。
- **目標:** 2027 年度（2028 年 3 月期）に売上高 2 兆 9000 億円、営業利益 3500 億円、営業利益率 12%、ROIC 12%以上を目指します[4][6]。これは、前中期戦略目標「Vision 2025」（2025 年度売上高 4 兆円、ROIC 15%以上目標）[5][7][37][38][51]と比較して、売上高目標は下方修正されたものの、利益率と ROIC の目標を重視する姿勢を示しています。
- **短期方針:** 2025 年度（2026 年 3 月期）の業績見通しでは、売上高は前期比微減（2.6 兆円）を見込む一方、営業利益は増加（2600 億円、営業利益率 10%）を計画しており、短期的な売上成長よりも利益改善を優先する方針です[4][6][8][53]。

3 つの「転換」 計画達成のため、以下の 3 つの「転換」を基本方針としています[4][6][14][43][52][53]。

1. **高収益構造への転換:** 聖域なき構造改革による収益性向上。
2. **成長を支える事業 5 本柱への転換:** 将来の成長ドライバーとなる事業領域への集中（2026 年度に計画）。技術や生産といった機能軸での事業再編・強化。
3. **真のグローバル体制への転換:** グローバルでのオペレーション最適化、DX 推進。

具体的施策

- **コスト構造改革 (1500 億円規模):** [4][6][53]
 - 変動費削減 (1000 億円): 不採算事業・非中核事業の見直し（撤退・再編・売却を含む）、材料費削減など[4][8][50][53]。
 - 固定費削減 (500 億円): 拠点統廃合（特に小規模拠点）、間接部門の効率化・人員削減など[4][6][8][50][53]。
 - 戦略投資 (売上高比 1%): システム投資、DX 推進、先行開発投資、自動化投資など[6]。
- **ROIC 経営の展開:** 投資資本回転率と営業利益率を軸としたニデック流 ROIC 経営を導入し、事業評価・資源配分を

行う[6]。

- **成長分野への注力:** AI データセンター向け冷却モジュール、EV 向けトラクションモータ（E-Axle）、エネルギー分野（BESS、発電機）、社会インフラ関連大型モータ、工作機械などの分野での成長を加速します[2][10][14][43][52]。

「Conversion 2027」による知財戦略への影響分析

新中期経営計画「Conversion 2027」は、ニデックの知財戦略に多方面から影響を与えることが予想されます。収益性向上と構造改革を軸とする計画内容は、知財活動の優先順位付け、リソース配分、評価軸の変化を促すでしょう。

収益性重視と事業再編の影響

- **IP ポートフォリオの選択と集中:** 計画の中心である「高収益構造への転換」[6]に伴い、限られた知財リソース（予算、人員）は、コア事業や将来の成長が見込まれる高収益分野（EV、AI データセンター関連、エネルギー分野など）へ重点的に配分される傾向が強まると考えられます[4][6]。
- **不採算・非中核事業関連知財の整理・活用:** 事業ポートフォリオの見直し、特に不採算・非中核事業の再編や売却[4][8][50][53]は、関連する知財ポートフォリオの整理を加速させるでしょう。単に権利を放棄するだけでなく、事業売却時の価値最大化や、ライセンスアウトによる収益化など、戦略的な活用・整理が求められます。
- **M&A・事業売却に伴う知財リスク管理強化:** 事業再編が活発化する中で、知財デューデリジェンスの重要性が増す一方、事業売却に伴う権利移転、ライセンス契約の整理、秘密保持義務の管理など、知財リスク管理の複雑化に対応する必要があります。

5つの事業柱への転換の影響

- **新事業体制への知財戦略整合:** 2026 年度に予定されている「成長を支える事業 5 本柱への転換」[6]は、知財戦略の大きな方向性を決定づける要因となります。新体制における各事業柱の戦略に基づき、必要な技術領域を特定し、それに対応した知財ポートフォリオ（特許網）の構築や、競合他社の知財分析に基づく戦略策定が急務となります。
- **事業柱間の知財シナジー創出:** 技術や生産といった機能軸での事業再編・強化[6]を目指す中で、各事業柱が保有する知財の共有や連携によるシナジー創出が期待されます。例えば、要素技術に関する基盤特許を複数の事業柱で活用する、共同での権利活用戦略などが考えられます。
- **成長分野への戦略的知財ポートフォリオ構築:** 5 つの柱が担うであろう成長分野（EV、AI、エネルギー等）においては、将来の競争優位性を確立するための戦略的な知財ポートフォリオ構築が不可欠です。自社開発だけでなく、M&A やアライアンスを通じた外部技術・知財の獲得も視野に入れた活動が強化される可能性があります[15][26][30]。

ROIC 経営と効率化の影響

- **知財活動の投資対効果検証強化:** ニデック流 ROIC 経営の導入[6]は、知財活動に対しても投資対効果（ROI）の観点からの評価を厳格化させるでしょう。特許出願・維持費用の最適化、権利活用（ライセンス収入等）による直接的な収益貢献、知財訴訟における費用対効果などが、より重要な判断基準となります。
- **知財業務プロセスの効率化:** 固定費削減目標（500 億円）[4][6]や DX 推進[4][6][53]の流れは、知財部門の業務プロセス効率化を加速させます。AI を活用した先行技術調査、特許管理システムの高度化、グローバルでの知財情報共有基盤の強化などが進むと考えられます。
- **ライセンス収入等による収益貢献への期待増:** 営業利益率向上目標[6]達成のため、保有する知財権を積極的に活用し、ライセンス収入や技術供与による収益を拡大する取り組みが強化される可能性があります。

成長分野への注力

- **重点分野への知財投資:** EV、AI データセンター、エネルギー関連、ロボティクスなどの成長分野では、研究開発活動と連携した積極的な特許出願、競合他社の動向を睨んだ IP ランドスケープ分析、標準化活動への参画などが強化されるでしょう[3][10][14][43][52]。
- **M&A における知財 DD の重要性増:** 成長分野での技術獲得や事業拡大を目的とした M&A において、対象企業の知財ポートフォリオの質やリスクを精査するデューデリジェンスの重要性が一層高まります[15][26][30]。

グローバル体制と DX

- **グローバル知財ガバナンス強化:** 「真のグローバル体制への転換」[6]方針のもと、海外拠点を含むグループ全体の知財活動の統制、リスク管理、情報共有体制の強化が求められます。特に中国など、事業展開が活発な地域での知財保護・活用戦略が重要になります[13][34]。
- **データ・AI 活用による知財戦略高度化:** DX 推進[4][6][53]は、知財分野においてもデータ分析や AI 技術の活用を促進します。IP ランドスケープ分析の高度化、発明発掘支援、契約管理の効率化などへの応用が期待されます[3][15][18][26][30][41]。

知財戦略変更に関する予測シナリオ

新中期経営計画「Conversion 2027」を受けて、ニデックの知財戦略が今後どのように変化していくか、いくつかのシナリオが考えられます。

シナリオ 1：収益性優先の最適化 このシナリオでは、「高収益構造への転換」とコスト削減[4][6]が最優先され、知財戦略も短期的な収益貢献と効率化に重点が置かれます。

- **主な活動:**
 - 不採算・非中核事業に関連する知財ポートフォリオの積極的な整理（売却、ライセンスアウト、権利放棄）。

- 特許出願・維持コストの厳格な管理と最適化。費用対効果の低い権利の削減。
- コア事業および短期的に収益貢献が見込める成長分野への知財リソースの選択的集中。
- 保有特許を活用したライセンス収入の最大化に向けた交渉力の強化。
- 知財部門の業務効率化（DX活用による自動化、標準化）。
- **特徴:** 短期的な利益改善効果は大きいものの、将来の成長に向けた広範な知財基盤の構築が後手に回るリスクがあります。

シナリオ 2：戦略的再編と成長重視 このシナリオでは、「5つの事業柱への転換」[6]と将来の成長基盤構築が重視され、知財戦略も長期的な視点での投資と戦略性が強調されます。

- **主な活動:**
 - 「5つの事業柱」の戦略に沿った技術領域を特定し、アグレッシブな特許網構築（質・量ともに）。
 - IP ランドスケープ分析を駆使し、研究開発戦略、M&A 戦略、アライアンス戦略へ積極的に提言[3][15][18][26][30][41]。
 - 成長分野における標準化活動への戦略的関与と必須特許の獲得。
 - M&A や外部連携による重要技術・知財の獲得。
 - コスト効率化よりも、戦略的重要性に基づいた知財投資を優先。
- **特徴:** 将来の競争優位性を確立できる可能性が高い一方、短期的なコスト増や、戦略が市場環境と合致しなかった場合のリスクを伴います。

シナリオ 3：バランス型アプローチ このシナリオでは、収益性向上と将来成長への投資のバランスを取る形で知財戦略が展開されます。

- **主な活動:**
 - 成熟事業・非注力分野ではコスト効率化とポートフォリオ最適化を推進。
 - 成長が期待される「5つの事業柱」関連分野へは、戦略的な知財投資を継続・強化。
 - ROIC 経営[6]の観点から、知財活動全体の費用対効果を継続的にモニタリングし、リソース配分を調整。
 - グローバルな知財リスク管理体制とガバナンスを維持・強化[1][3][41][42]。
 - ライセンス活動は、収益確保と事業戦略（クロスライセンス等）の両面からバランスよく推進。
- **特徴:** リスクを抑えつつ、持続的な成長を目指す現実的なアプローチですが、大胆な変革には繋がりにくい可能性があります。

どのシナリオに近づくかは、今後の事業再編の進捗度、市場環境の変化、そして経営陣の判断によって左右されるでしょう。

結論と今後の展望

ニデックの新中期経営計画「**Conversion 2027**」は、同社の知財戦略にとって重要な転換点となります。これまでの「知的付加価値の創造による事業への貢献」[1][3][41][42]という基本方針は維持しつつも、その具体的な活動内容は、「収益性向上」「事業の選択と集中」「**ROIC 重視**」といった計画のキーワードを反映し、より戦略的かつ効率的なものへと変化していくことが予想されます。

具体的には、知財ポートフォリオはコア事業と成長分野に重点化され、不採算・非中核分野の知財は整理・活用が進むでしょう。知財活動の評価においては、コスト効率やライセンス収入といった直接的な収益貢献度がより重視されるようになると考えられます。一方で、将来の成長ドライバーとなる「**5つの事業柱**」[6]を確立するため、IP ランドスケープ分析の活用や、戦略的な特許網構築といった攻めの知財活動も、対象分野を絞って強化されるはずです。

今後の注目点としては、以下の点が挙げられます。

- **事業再編の具体化:** 不採算・非中核事業の特定と整理がどのように進むか。それに伴う知財ポートフォリオの変動。
- 「**5つの事業柱**」の定義: 2026 年度に計画されている新事業体制[6]が具体的にどのようなものになり、各柱における知財戦略がどう策定されるか。
- **ROIC 経営の浸透:** ROIC 指標[6]が知財投資判断や活動評価にどの程度影響を与えるか。
- **知財部門の役割変化:** コストセンターからプロフィットセンターへ、あるいは戦略立案への貢献度をより高める方向へ、部門の役割や機能がどう進化していくか。

ニデックが「**Conversion 2027**」を通じて高収益企業への転換を成功させる上で、変化に対応した柔軟かつ戦略的な知財戦略の実践が不可欠となるでしょう。

1. [INITIATIVES for INTELLECTUAL PROPERTY – Nidec](#)
2. [Nidec Corporation Reports Record Financial Performance](#)
3. [知的財産に対する取り組み | ニデック株式会社 – Nidec](#)
4. [ニデック聖域なき構造改革へ、過去最高並ぶ決算も不採算](#)
5. [Medium – and Long – Term Strategic Goals – Nidec](#)
6. [Nidec : Presentation Materials | MarketScreener](#)
7. [中長期戦略目標 | ニデック株式会社 – Nidec](#)
8. [ニデック、人員削減や拠点統合も一新中期計画で売り上げより ...](#)
9. [Compliance | NIDEC CORPORATION](#)
10. [Nidec Industrial Solutions sets new mid – and long – term CO₂ ...](#)
11. [ニデックの知的財産活動 – よろず知財戦略コンサルティング](#)
12. [ニデック聖域なき構造改革へ、過去最高並ぶ決算も不採算/非 ...](#)
13. [China National Intellectual Property Administration What's New "We ...](#)
14. [Financial Statements \(Fiscal Year Ended March 31, 2025\)](#)

15. [【京都】知財戦略/知財マネジメント（管理職）－タイズ](#)
16. [ニデック、デンソー、第一三共など、2025 年 3 月期本決算発表](#)
17. [Policy | NIDEC CORPORATION](#)
18. [知財人材へのデザインの学びのススメ ～知財功労賞受賞企業 ...](#)
19. [Information Security Policy | NIDEC TOSOK CORPORATION](#)
20. [知的財産戦略、ライセンス、事業強化について話せます | スポット ...](#)
21. [Technology & Case Studies | NIDEC CORPORATION](#)
22. [Brian Gill – Intellectual Property Attorney – Nidec ... – LinkedIn](#)
23. [Nidec Receives “Clarivate Top 100 Global Innovator 2024 ...](#)
24. [Social Media Policy | NIDEC COMPONENTS CORPORATION](#)
25. [INITIATIVES for INTELLECTUAL PROPERTY – Nidec](#)
26. [ニデック株式会社／【京都】知財 | マネジメントおよび知財戦略 ...](#)
27. [Technology & Case Studies | NIDEC CORPORATION](#)
28. [Policy | NIDEC CORPORATION](#)
29. [ニデックの知的財産活動－よろず知財戦略コンサルティング](#)
30. [【京都】知財戦略/知財マネジメント（管理職）－タイズ](#)
31. [Brian Gill – Intellectual Property Attorney – Nidec ... – LinkedIn](#)
32. [Nidec Receives “Clarivate Top 100 Global Innovator 2024 ...](#)
33. [知財人材へのデザインの学びのススメ ～知財功労賞受賞企業 ...](#)
34. [China National Intellectual Property Administration What's New "We ...](#)
35. [知的財産に対する取り組み | ニデック株式会社 – Nidec](#)
36. [Compliance | NIDEC CORPORATION](#)
37. [Medium－and Long－Term Strategic Goals – Nidec](#)
38. [中長期戦略目標 | ニデック株式会社 – Nidec](#)
39. [Information Security Policy | NIDEC TOSOK CORPORATION](#)
40. [Social Media Policy | NIDEC COMPONENTS CORPORATION](#)
41. [知的財産に対する取り組み | ニデック株式会社](#)
42. [INITIATIVES for INTELLECTUAL PROPERTY | NIDEC CORPORATION](#)
43. [Financial Statements（Fiscal Year Ended March 31, 2025）](#)
44. [Nidec : Presentation Materials | MarketScreener](#)
45. [Nidec Corporation Reports Record Financial Performance](#)
46. [ニデック聖域なき構造改革へ、過去最高並ぶ決算も不採算/非 ...](#)

- 47. [ニデック聖域なき構造改革へ、過去最高並ぶ決算も不採算](#)
- 48. [Nidec Industrial Solutions sets new mid－and long－term CO₂ ...](#)
- 49. [中長期戦略目標 | ニデック株式会社 － Nidec](#)
- 50. [ニデック、人員削減や拠点統合も一新中期計画で売り上げより ...](#)
- 51. [Medium－and Long－Term Strategic Goals － Nidec](#)
- 52. [Nidec : Financial Statements \(Fiscal Year Ended March 31, 2025\) | MarketScreener](#)
- 53. [ニデック聖域なき構造改革へ、過去最高並ぶ決算も不採算／非中核事業見直し：製造マネジメントニュース \(1/2 ページ\) － MONOist](#)